



平成 27 年 9 月 1 日(火)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 佐々木 秀之

# 開四小だより

## 9月号

### 夏休みの成果を秋の実りへ

校長 佐々木 秀之

校庭、校舎に子供たちの元気のいい爽やかな声が戻ってきました。44日間の夏休みが明け、今日から1学期後半がスタートします。子供たちにとってこの夏休みは、学期中にはできないかけがえのない多くの体験ができたと同時に、自分がかけがえのない存在であるということも多く感じる事ができた夏休みであったことと思います。そして、この夏休みにできるようになったことを、更に継続して習慣化させたいものです。

例えば、お手伝い……。多くのご家庭では、この夏にご家庭の仕事を子供たちに手伝わせたことと思います。子供はお手伝いが好きですし、お手伝いしたいと思う気持ちは、心も体も成長している証です。また、自分の力を試してみたいという意欲の表れでもあります。普段は自分からやりたいと言わない子供も、夏休みの間は「何か手伝おうか?」と自分から言い出し、続けた子もいることでしょう。この成長を、夏休みの間だけで終わらせては勿体無さすぎます。

手伝いをしてくれたことで失敗しても叱らず、できたことを大げさに褒めれば、また頑張りたくなります。大人も、「自分でした方が早いのに」「子供にさせると後片付けが大変」「失敗されたら困る」と思いますが、そこは大人の我慢が大切かと思えます。手伝いをすることで、「自信が付く」「やり方を考え工夫する」「責任感が生まれる」「よく気が付くようになる」など、手伝いをさせることは子供たちを一回りも二回りも成長させます。是非、継続したいものです。

例えば、自学自習……。 「毎日机に向かう」ということは、どのご家庭も毎日の課題にしたことと思います。もちろん、時間の違いはありますが、毎日勉強するという習慣を夏休みの間だけで終わらせては勿体無さすぎます。

大人は子供に「あれもやらせたい」「これもやらせたい」と思い、複数の課題を一度にやらせようとしがちです。すると、子供たちの負担が大きくなりすぎ、大人もイライラして無理矢理やらそうとしてしまい、子どもはますます嫌になる、という負のスパイラルに入ってしまう。これでは大人も子供も長続きしません。クリアすべき課題を一つずつ決めて、それがクリアできたら次の課題へ、というやり方が、遠回りのようで、実は一番確実のようです。

「毎日机に向かう」という習慣ができたのであれば、今後は、例えば「毎日国語と算数のドリルを1ページやる」などの新たな課題を加えていくとよいかと思えます。

「先生、夏休みの間にこんなお手伝いをしました」「先生、虫を観察し続けたらこんなことが分かりました」「先生、こんな絵を描きました」という子供たちの言葉に、「すごいね、見せて」「ほんと? 教えてくれる」「上手だね、友達にも教えてあげて」と少し大げさと思えるくらい素直に認め、ご家庭で築いた良い習慣を秋の実りへとつなげられるよう、前期後半のスタートを切りたいと考えています。